

## 学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 申請者氏名   | 筆野 元                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 2. 審査委員    | 主 査：（兵庫教育大学教授） 西岡 伸紀<br>副主査：（岡山大学教授） 伊藤 武彦<br>委 員：（岡山大学教授） 上村 弘子<br>委 員：（滋賀大学准教授） 大平 雅子<br>委 員：（兵庫教育大学准教授） 小田 俊明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 3. 論文題目    | 小学生を対象とした目標設定スキル育成プログラムの開発及び短期的・中期的評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 4. 審査結果の要旨 | <p>教科教育実践学専攻生活・健康系教育連合講座 筆野元 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：令和3年2月11日（木） 14時00分～14時40分<br/>         場所：オンライン（ZOOM）による審査委員会</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>学位論文の構成は次の通りである。</p> <p>第1章 序論<br/>         第2章 小学校高学年の目標設定に関する行動及び習慣についての実態調査<br/>         第3章 小学校高学年を対象とした目標設定スキル尺度の開発<br/>         第4章 目標設定スキル育成プログラムの開発及び評価<br/>         終章 総合考察</p> <p>第1章では、目標設定に関わる課題及び研究目的について述べた。具体的には、小学校の授業や学校生活において、様々な目標が設定されるものの、有効に機能していない場合があることを指摘した。また、小学生を対象とする既存の目標設定スキル尺度の内容や信頼性、国内外で実施されてきた目標設定スキルの育成プログラムの評価方法、評価結果に課題があることを論じた。そのうえで、本研究の目的を、「小学校高学年の目標設定スキル育成のため、小学生が行う目標設定の実態を踏まえて目標設定スキル尺度を開発すること、及び目標設定スキル育成プログラムを作成、実施し、同スキル尺度によりプログラムの効果や課題を明らかにすること」とした。</p> <p>第2章では、小学生の目標設定の内容、目標達成のための具体的取組等を把握することを目的として、予備調査（研究Ⅰ、Ⅱ）を実施した。研究Ⅰでは、幅広く情報を得るため質問紙調査を、研究Ⅱでは詳細な情報を得るためフォーカスグループインタビュー（以下FGI）を</p> |

行った。その結果、質問紙調査では、設定目標の具体性が乏しいこと、達成のための期限、達成可否の基準が不明確であること、達成のための工夫として計画の作成、あきらめないことなどが挙げられた。FGIでは、学校行事や習い事に関わる目標設定、達成に向けた工夫として計画の作成が挙げられたが、計画内容の可視化は行われていなかった。また、目標達成に複数回失敗した場合は別の目標を設定するなど、柔軟な対応が挙げられた。

第3章では、前章の目標設定の調査結果、内外の関連プログラム、評価研究等を参照し、目標設定スキルの予備的尺度を作成し、小学校5、6年生419人を対象として実施した。さらに信頼性を検討し、さらに、外的基準としてレジリエンス、セルフコントロール、セルフエフィカシーを用いて基準関連妥当性を検討した。

開発した高学年用目標設定スキル尺度について、因子及び信頼性係数 $\alpha$ の値は、尺度全体： $\alpha = .814$ 、下位尺度「達成への意志」： $\alpha = .833$ 、「達成への計画」： $\alpha = .713$ 、「周囲への相談」： $\alpha = .703$ であったが、「柔軟な目標設定」： $\alpha = .529$ であった。妥当性に関わり、目標設定スキル全体と外的基準との相関係数は、「レジリエンス」： $r = .673$ 、「セルフコントロール」： $r = .474$ 、「一般性セルフエフィカシー」： $r = .318$ であり、いずれも有意な相関が認められた。目標設定スキル、外的基準の下位尺度の間でも、同様に弱～強程度の有意な相関が多く認められた。したがって、課題は一部残るものの、一定の信頼性及び妥当性が確認された。

第4章においては、小学校高学年を対象とした目標設定スキル育成プログラムの開発、実施、評価を行った。プログラムでは、目標設定スキル育成のため、体育のハードル走を用いてスキルの基礎的習得を図り、日常生活での目標設定に応用した。評価では、準実験デザインを用い、1小学校5年生（介入群68人、対照群62人）を対象とした。介入群には、目標設定スキル育成プログラムを実施し、両群の目標設定スキル尺度全体、各下位尺度の得点を事前・事後・追跡時（授業9か月後）で比較した。併せてプロセス評価を実施した。

その結果、事後では「達成への意志」「達成への計画」「柔軟な目標設定」の各得点が上昇したものの、追跡時には「柔軟な目標設定」を除き低下した。一方、プロセス評価の結果は概ね良好であった。以上より、本研究での目標設定スキル育成プログラムは短期的には有効である可能性が示唆された。加えて、効果は中期的には維持されにくいことが明らかになった。

終章では、下位尺度「柔軟な目標設定」の信頼性が低いことから尺度改訂の必要性について、またプログラム効果の継続性に課題があることについて論じた。効果の継続のためには、プログラム終了後のフォローアップ学習の必要、プログラム自体の改訂の必要等に言及した。

## 2. 審査経過

審査に先立ち、13時00分～13時50分に公聴会を行い、審査委員は発表を聴講し、公聴会参加者を交えて質疑応答が行われた。その後の審査会では、以下の点について、質疑応答、討議が行われた。

### （1）研究目的と内容の整合性

研究目的は、小学校高学年の目標設定スキル尺度を開発すること、及び同スキル育成プログラムの開発、実施、評価によりプログラムの効果や課題を明らかにすることとして明確に設定されており、論文の内容も目的に整合して構成、論述されていると評価された。

### （2）独創性、発展性

本論文の独創性は、目標設定スキル尺度、及び同育成プログラムの開発、同尺度を用いたプログラムの効果の短期的・中期的評価にあり、効果が詳細に分析された点の特徴的である。また、発展性として、目標設定スキルを幅広い日常生活や教育活動全般に適用することが期待された。一方、課題として、目標設定スキルの状況や効果の評価における性別、目標設定が日常的に行われる塾や習い事等の交絡要因の関連性の分析、ハードル走と日常生活における各目標設定の間の関連性の分析、下位尺度「柔軟な目標設定」の改訂、目標設定スキルの測定における客観性の向

上方策（他者評価など）について指摘された。

（３）学校教育の実践への貢献

実践への貢献については、目標設定スキルが教科の学習、教科外の様々な活動等において活用できることから、実践に十分貢献すると判断された。一方、実践の有効性を高めるためには、プログラムの効果の継続性の向上、プログラムの「相談」に関する指導内容の改訂、プログラムの使用が特定の教員に限定されることなく使用可能性を高めるような方策の開発、目標設定スキルの向上や到達の程度の教育的意義の明確化の必要が指摘された。

３．審査結果

以上により、本審査委員会は 筆野元 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。